

**平成30年度
第2回地域振興会議会長会議事概要**

日 時：平成31年2月19日(火) 10時00分～11時57分
場 所：市役所本庁舎6階 全員協議会室

〔本庁関係〕2名

深澤市長、安本地域振興局長

〔各地域振興会議〕16名

会 長：森原会長(国府)、南部会長(福部)、竹田会長(河原)、西川会長(用瀬)
小谷会長(佐治)、池長会長(気高)、田中会長(鹿野)、高橋会長(青谷)
総合支所：竹氏国府支所長、平戸福部支所長、遠藤河原支所長、沖田用瀬支所長
西尾佐治支所長、武田気高支所長、徳岡鹿野支所長、山本青谷支所長

〔事務局〕4名

地域振興局地域振興課：田中次長、吉田課長補佐、平井主事、小野主事

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 各地域で重点的に取り組んでいる事項について
- 4 地域振興課の事業説明及びフリートーク
- 5 その他
- 6 閉 会

議 事 概 要

1 開 会 (1 0 : 0 0)

2 市長あいさつ (1 0 : 0 1)

3 各地域で重点的に取り組んでいる事項について

国府地域振興会議 森原会長 (1 0 : 0 8 ~ 1 0 : 1 8)

○地域組織の在り方について

国府地域では宮下地区がモデル地区として、地域組織の在り方について地域の特性や課題の把握に取り組んできた。取組の内容は、昨年12月に開催された「参画と協働のまちづくりフォーラム」で発表され、他地域の地区公民館やまちづくり協議会にも報告がなされている。

国府地域振興会議では、各地区公民館運営委員会やまちづくり協議会が抱える現状・課題について、「地域組織の在り方検討をめぐる議論が、市民にほとんど情報公開されていないのではないか」、「地区公民館事業もまちづくり協議会事業も共催で一緒に行っていることから、組織の在り方を検討する必要があるのではないか」、「まちづくり協議会と運営委員会は組織は違うものの、役員やスタッフを同じ人が担っていたり、一つの事業でも予算を割り振りして処理しており事業が複雑である」等の報告がなされた。

今後は宮下地区の取組が他地区においても波及していくよう期待している。

○免震ダンパーの数値偽装について

昨年10月末、新庁舎の工事現場を見学した際に、新庁舎の免震ダンパーは問題ないと説明を受けたが、結果的に再検査になり残念に思う。

<市長による意見・感想>

○免震ダンパーの数値偽装について

国の減衰力設計基準は15%以内であるのに対し、本市は8%と水準を厳しく要求しており、範囲内に収まっていた。しかし、メーカーが数字の見栄えを良くしようとして小さい数値に置き換えていたことが判明したため、信ぴょう性に欠けると判断し、現在はメーカーに送って検査を依頼し、安全性が確認できてから取り付けるよう進めている。このことによる安全面や工事工程の遅れなどの問題は無い。

○地域組織の在り方検討

先進的に宮下地区・佐治地区で取組を進める。鳥取市は平成20年を「協働のまちづくり元年」として取組を始めてから10年が経過した。初めての取組だが、地域の皆さんと協議を重ねながら進めていきたい。

福部地域振興会議 南部会長 (1 0 : 1 8 ~ 1 0 : 2 7)

○新たなインターチェンジを活用する福部町のまちづくりの推進

新たなインターチェンジを活用する福部町のまちづくりを推進するため、鳥取大学と連携し福部町まちづくり構想を策定した。事業の主な流れは以下の通り。

- 平成30年 3月 鳥取大学に調査研究委託を行い、基本構想を策定
- 5月 福部地域振興会議で基本計画策定に着手
- 10月 まちづくりワークショップの開催
- 平成31年 1月 基本計画(素案)への意見募集
- 2月 基本計画の最終決定

福部町まちづくり構想基本計画には様々な施策が記載されているが、主なものとしては「福部駅・支所周辺を中心とした活性化」と「道の駅を中心とした活性化」であり、この2つを中心として活性化を図っていき。またこれらを進めていくためには、町内を走っているらっちゃんバスのダイヤ変更等も必要となる。

構想の実現には時間がかかると思うが、一つ一つ着実に進めていきたい。

<市長による意見・感想>

福部阿まちづくり構想基本計画については、素晴らしいものを策定されたと思っている。インターチェンジの設置については従来から要望があるので、ぜひとも実現に向けて引き続き取り組んでいきたい。またいわゆる南北線については、国土交通省が3つのルートを示しており、住民合意を形成しながら後戻りしないように着実に進めていきたい、という思いが伺える。

またJRと連携した活性化についてもお話があった。福部地域は多くの地域資源に恵まれており、中でも鳥取砂丘は鳥取市はもとより圏域全体で見ても特筆すべき地域資源だと考える。

少しでも早く南北線の開通・新たなインターチェンジの設置を実現できるよう取り組んでいきたい。

河原地域振興会議 竹田会長（10：27～10：37）

〇いなば西郷むらづくり協議会「工芸の郷づくり」

西郷地区は河原地域で最も過疎化・少子高齢化が進行し空き家が増加している地域である。このような状況を改善し、地域を活性化するため平成28年度から地域資源である陶芸等を活用した「西郷工芸の郷づくり」に取り組んでいる。工芸の村を開設し、移住定住、地域活性化等に対する支援を受けながら進めてきた。花輪窯の花井さんや、木工、ガラス細工の職人の方々も移住し、食堂も新しくできた。「西郷工芸祭り」では県内外から約1,600人が来場した。

今後は、これまでの取組をさらに加速するため、様々なアイデアやスキルをもった外部の人材によるサポートが必要だと考えている。

<市長による意見・感想>

西郷工芸祭りは、今後もたくさんの方にお越しいただけるすばらしい取組だと思うので期待している。市としてもいろいろな形で地域や作家の皆さんを支援していきたい。

用瀬地域振興会議 西川会長（10：37～10：45）

〇公共交通の確保

乗合タクシーは、用瀬地域内を往復17便（火・木・土曜日）運行されているが、運行会社から、今年度をもって運行終了としたいとの申し出があった。さらに、一般のタクシーの配置も撤退したいとのこと。高齢化が進む中、路線バスも含めどのように公共交通手段を確保するかが課題である。

乗合タクシー終了後3年間程度は市が運行する予定とのことだが、3年後は地元で運営することになるので、自主財源の確保するために利用者を増加させる必要がある。利用しやすい路線やダイヤ等のニーズ調査を行う予定である。

生活交通の維持・確保や、3年後の地元運用の体制作り等において、市の協力をお願いしたい。

<市長による意見・感想>

公共交通の確保は、用瀬地域だけでなく全国的な大変大きな課題だと考えている。

平成30年度にアンケート調査を実施しており、また新年度予算では生活交通創生ビジョンの策定と、公共交通空白地有償運送を支援するための経費を計上している。

地域の皆様のいろいろなご意見を伺いながら、本市としてもできる限りご支援をさせていただきたいと思う。

佐治地域振興会議 小谷会長（10：45～10：56）

〇小さな拠点づくり事業と新たな地域運営組織について

平成28年12月に「佐治町小さな拠点事業事前検討会」を立ち上げ、協議を重ねてきた。平成29年5月には住民の生活状況等に関するアンケートを実施し、出された意見やアイデアを参考にしながら「地域助け合い事業」の計画を取りまとめ、できることから取組を具体化しようとしているところである。

また、この運営組織として平成31年度に特定非営利活動法人（NPO）を設立し、併せてまちづくり協議会の見直しや地区公民館の地域運営を含む新たな市民との協働によるまちづくりの展開に向けて、新たな地域運営組織の検討にも取り組んでいる。

<市長による意見・感想>

小さな拠点づくりは、住み慣れた地で安心して心豊かに生活できるため、本市の将来を見据えた大変重要な取組である。市内の他地域でも取り組みたいというところも出てきたので、全市的に広げていけるよう一緒に頑張って取り組んでいきたい。

気高地域振興会議 池長会長（10：56～11：03）

浜村温泉街の活性化について

浜村駅周辺の浜村温泉街では、空き家になった店舗をリノベーションし新しく事業を始める動きが移住された若者を中心に起きている。「喫茶ミラクル」、焼菓子屋「はこぶね」、パン屋「貝日和」ができ、またミシュランビブグルマンに掲載されたラーメン屋「ホットエアー」では行列が起きているが、その正面にある浜村温泉館が閉館しており残念な状態である。

今後も交流人口を増やし賑わいのあるまちにするため、役員だけではなく地域住民の参画、行政の支援も必要であると考えている。

<市長による意見・感想>

平成31年夏は鳥取西道路の開通、また道の駅のオープンという好機の到来の時期である。近隣では、吉岡温泉町が新たな温泉館を作る取組に対し、本市も支援を行っている。このような事例を参考にしながら、どのように改修すべきか検討していきたい。

鹿野地域振興会議 田中会長（11：03～11：13）

道の駅「西いなば来楽里」・高速交通ネットワーク完成を見越した地域振興の推進

- ・鳥の演劇祭、週末だけのまちの店、わったいな祭り等様々なイベントがあるが、それぞれにおいてどう魅力的なものにしていくのか、更なる磨き上げが必要である。
- ・総合支所前にある西日本最大級のハス田は、今年度花畑エリアを一部ハスに転換する整備を行った。住民や来訪者に安らぎやゆとりを与えている。
- ・いんしゅう鹿野まちづくり協議会を中心に、空き家の有形文化財登録と活用を推進している。
- ・鳥取大学や大阪国際大学等と連携し山間地遊休農地での果樹の里山づくりに取り組んでおり、果実を利用した商品開発等も推進していきたい。
- ・桜の名所である「鹿野城跡公園」は、近年紅葉の名所としても知られるようになってきた。
- ・先日の地域振興会議にて、鹿野学園の6年生が地域活性化に向けたアイデアを提案してくれた。子どもたちと一緒に活性化に取り組んでいきたい。

<市長による意見・感想>

道の駅・鳥取西道路から鹿野にお越しいただけるようなきっかけづくりのため、鹿野地域の魅力発信をこれからも進めてほしい。空き家は移住定住だけでなく、皆さんに鹿野の町並みを知っていただけるよう活用に期待したい。

青谷地域振興会議 高橋会長（11：13～11：24）

青谷上寺地遺跡の地域の関わりについて

青谷上寺地遺跡の史跡整備が平成31年度に着手されることに伴い、地域力により史跡を活用したまちづくりを行うよう視察や検討を行っている。ボランティアガイドや体験会等の講師等、知恵と労力が不可欠と考え、ボランティアガイド養成ガイドの募集をしたところ、定員を上回る応募があった。

またオープン時は来館者が多いが、それ以降の来館者数維持のための工夫が必要であり、来場者に「次回も来たい」と思わせるようなワクワク感をどう演出していくかが課題である。

○委員提案について

青谷地域振興会議では委員提案を重要視している。提案をすぐその場で討議するのではなく、提案内容を事前に予告し、勉強して討議に臨む等の工夫をしながら運営している。

<市長による意見・感想>

平成31年度に、県と共同で上寺地遺跡の整備事業について具体的な予算化をしていきたい。遺跡整備は平成31年度から着手し10年間くらいかかるが、大規模で学術的にも非常に価値の高い遺跡なので、3年後くらいには一部先駆けてのオープンも考えている。

4．地域振興課の事業説明及びフリートーク（11：25～11：57）

○地域振興課の事業説明

- ・「小さな拠点」形成に向けた取組について・・・吉田課長補佐より説明
- ・本市の移住定住に関する主な取組について・・・田中次長より説明
- ・中山間集落見守り活動支援事業について・・・平井主事より説明

○フリートーク（21分）

- （南部会長）小さな拠点事業の地域はどのように決定しているのか。自治会への説明は行っているのか。
- （吉田補佐）自治会への説明は行っておらず、モデル事業として佐治地域が取り組んでいる。河原地域からも声が上がったので、今後市としての方針を定めて然るべき時期に説明を行う予定。
- （南部会長）何例か実績が出てから進めるといふことか。まずは自治会へ説明すべきだと考える。補助制度ができた際に、地区会長会等で説明をされれば、手を挙げる地区も増えるのではないかと。
- （田中次長）改めて実施する地域や進め方等について検討していきたい。
- （南部会長）山陰近畿自動車道の早期全線開通をお願いしたい。山陰新幹線についても動きが出ているが、実現まで何年かかるかわからない。また、ふるさと納税の金額はいくらか。
- （深澤市長）山陰近畿自動車道は3府県にまたがっており、総延長120kmで現在の供用率は4割と思われる。新温泉浜坂IC～余部ICまでの9.8kmが供用開始された。現在は西側の7.6kmの整備が進められており7年くらいかかる。国土交通省とともに、予算獲得や早期整備に努めている。課題もたくさんあり、鳥取自動車道の付加車線の早期整備と、県境の国道373号線の整備を要望している。高速道路ネットワークの整備について引き続き取り組んでいく。新幹線については、基本計画は昭和48年に決定されているので、整備計画に持っていく。新幹線が整備されたところは、在来線が第三セクターになるという仕組みがあり、これを変えていく運動を進めていきたい。
- （田中次長）平成29年度のふるさと納税額は2億2,000万円である。
- （高橋会長）本市に移住された方はどんな方がいらっしゃるのか、詳しい情報を知りたい。
- （深澤市長）定年退職後の方が移住されるというイメージが強いが、本市に移住されるのは30代の若い方が多い傾向。
- （高橋会長）都会から田舎に移住する場合において、医療等に関して利便性の心配はないのか知りたい。
- （深澤市長）本市を含む県東部医療圏の病床数は全国平均よりも充実していると考えている。ただし、かかりつけの医療機関等の距離については、公共交通が十分でない場合があり、不便さはあると思う。平成27年度から、本市及び近隣4町とともに地域包括ケアシステムという仕組み作りを進めており、在宅医療と介護をどのように提供していけるのか検討している。
- （森原会長）南部会長と重なるが、小さな拠点事業に関しては検討段階から自治会に説明する必要があるのではないかと考える。その方がスムーズに事が運ぶと思う。
- （深澤市長）情報提供やPRが十分でなかった点についてはお詫び申し上げる。佐治地域で試行的に取り組んでいく段階からの情報発信は大切だと思っているので、全市的に取り組んでいただけるようになるためにも、情報をお伝えする様努めていきたい。

5．その他（11：57）

6．閉会（11：57）